

アフィカットケニアなど3カ国が報告
フォーラム

機械化の進展望む

JICA

2面
農経しんぼり '23 5/29

独立行政法人国際協力機構(JICA)は22日、都内のホテルニューオータニ東京で、「AFICAT(アフィカット)ビジネスフォーラム」を開催した。

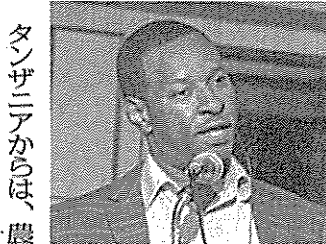
同フォーラムでは、アフィカットの重点国であるタンザニア、ケニア、コートジボワール、ガーナ、ナイジェリアの農業JICAの窪田修上級審

議役、後援した日農工の田村敏彦専務理事が挨拶。次いでアフィカット全体のプレゼンテーションがあり、各国からの発表へと移った。

ケニアからは、農業開発省のリチャード氏が、ケニアビジョン2030で機械化率(現状で手作業50%、畜力20%、機械30%



ケニアのリチャード氏(左)とアガサ氏(右)



タンザニアのプロリアン氏

を50%にする目標を掲げ施策を推進していることを述べた。また、民間セクターからはアガサ氏が農業セクターのネットワークについて紹介。



ガーナのパトリック氏(左)とイーシャ氏(右)

タンザニアからは、農業省のプロリアン氏がアフィカットの活動への期待を述べた。ガーナからは食料農業省のパトリック氏が米の自給率を2030年に100%とするために機械化を進めたいとし、民間部門ではイーシャ氏が農機の寿命を延ばすためにアフターサービスを提供していることを語った。